

1. 研究課題・実施機関・研究開発期間・研究開発予算

課題名 : 自治体向け音声翻訳システムに関する研究開発
 副題 : 自治体窓口業務に対応した音声翻訳システムとサービス化に向けた研究
 実施機関 : 凸版印刷株式会社、株式会社フィート
 研究開発期間 : 平成27年度から平成31年度(5年間)
 研究開発予算 : 総額749百万円(平成27年度150百万円)



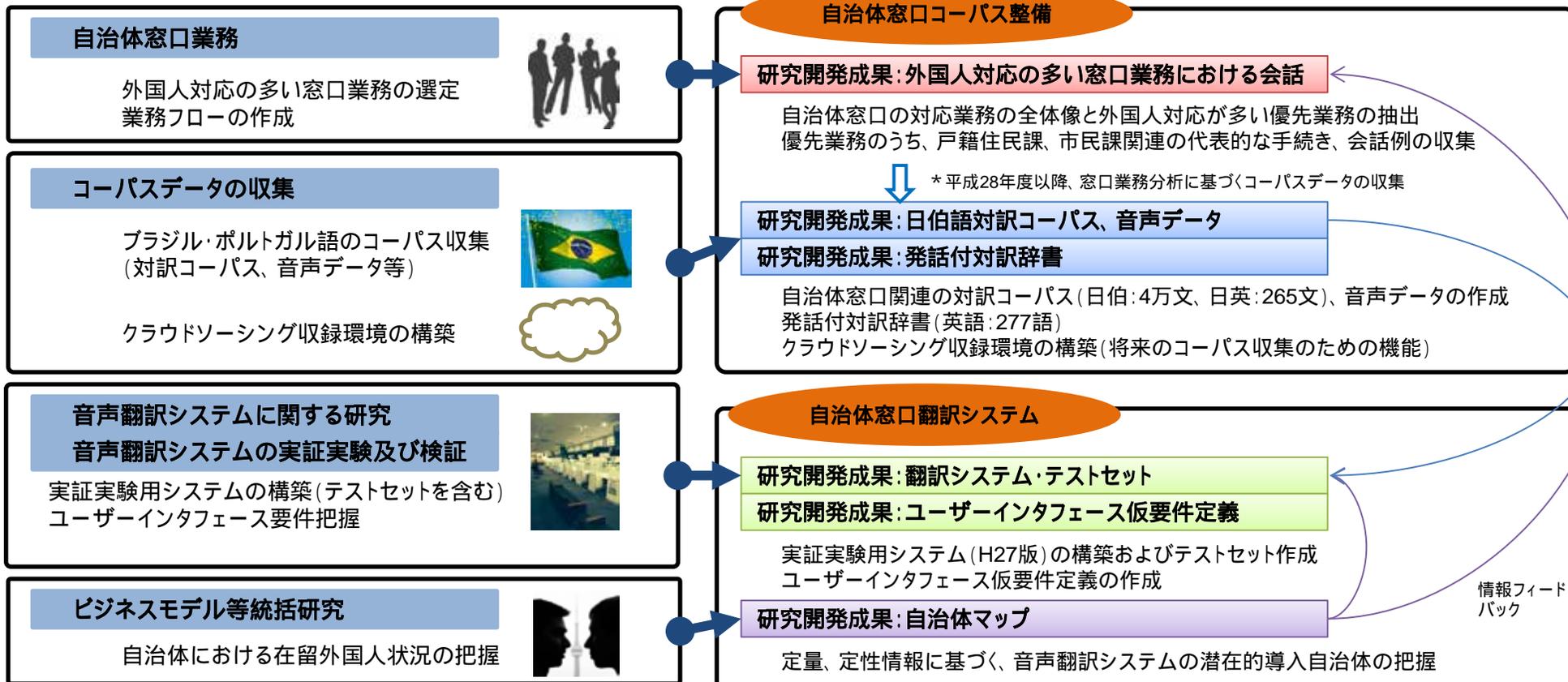
2. 研究開発の目標

本研究開発では、NICTで整備されたコーパス情報等も積極的に活用し、自治体窓口における音声翻訳システムの精度向上と研究開発の効率化を図る。

3. 研究開発の成果

研究開発目標

研究開発成果



4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等)

	国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
自治体向け音声翻訳システムに関する研究開発	(0)	(0)	(0)	(0)	(2) 成果数は累計件数、()内は当該年度の件数です。	(0)	(0)

(1) プレスリリース

「外国人が訪れる全国の自治体向けに窓口での言葉の壁をなくす、音声翻訳サービスの開発に着手～東京都板橋区との連携のもと、窓口での実証実験を開始～」(2016年3月22日)

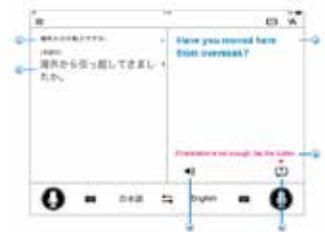
本研究開発を実施する凸版印刷株式会社、株式会社フィートともプレスリリースを発行し、自治体窓口業務に対応した国内で初めての音声翻訳システムの研究開発に着手したことを公表するとともに、研究開発の成果を活用し、大学やハローワーク、金融機関などさまざまな窓口業務で利用可能な音声翻訳システムの開発を推進することを示した。

【報道等】 マイナビニュース「凸版印刷、自治体窓口業務向け音声翻訳システムの研究開発に着手」
(<http://news.mynavi.jp/news/2016/03/23/089/>)

(2) 自治体におけるロールプレイの実施

板橋区におけるロールプレイ(住民登録、国民健康保険手続きにおける会話実態の把握)(2015年10月5日)

板橋区に協力いただき、職員2名と外国人間での窓口でのやり取りを再現し、音声翻訳システムのやり取りの順序、会話の内容、両者の位置関係、やり取りを補助するツールなど、窓口での外国人対応の詳細な分析に活用する。



5. 今後の研究開発計画

平成28年度は、昨年度の自治体窓口業務の体系化に基づき、外国人対応が期待される窓口(税金、年金、子育て)の業務分析を行い、窓口会話のサンプルを収集する。これにより、代表的な窓口業務のコーパス作成に寄与する(課題1)。コーパスデータの収集(課題2)では、昨年度に引き続き、ブラジル・ポルトガル語(以下、伯語)を優先する形で、音声コーパスの収集を進める。同言語の音声コーパスは、総量の20%程度を想定している。平成28年度は、課題3、4で実施する模擬・実証実験でのデータのインプットを考慮し、実証実験実施自治体用語辞書、自治体用語辞書、コーパス、音声収録等を行う。これらを踏まえ、音声翻訳システムの構築と評価を行い、音声翻訳エンジン及びアプリケーションの開発と改善を図る。自治体窓口における実証・検証では、模擬実験と実証実験を行い、平成29年度以降の実証実験を見据え、ユーザビリティと翻訳精度の改善を図る。本研究開発成果の展開に向けたビジネスモデル等統括研究(課題5)では、昨年度に引き続き、音声翻訳システムの成果の展開モデルの検討に資する基礎情報の収集を図るとともに、自治体窓口音声翻訳システムの情報発信と自治体とのネットワーク構築に向けた情報基盤として、ホームページ等の開設を計画している。